

2025

2年生 シラバス

令和7年度 上尾市立瓦葺中学校

AGEO MUNICIPAL KAWARABUKI JUNIOR HIGH SCHOOL

国語【第2学年】

1 国語の学習で目指すこと（到達目標）

言葉を正確に受け止める力と、自分の思いや気持ちを的確に表現する力をつけることが目標である。具体的には、文章の内容を表現に即して正しく読み取ることと、自分の考えが分かりやすく伝わるように文章を整えて書くことを目指している。2年生では、文字を丁寧に正確に書くことの練習を重点的に行い、書写力の向上にも努めたいと考えている。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「国語2」（光村図書） ○副教材 「漢字の学習」「文法練習ノート」 「積み上げ国語」 「国語便覧」「級別漢字クラブ」	持ち物等	○教科書および副教材 ○国語専用のノート（各自で用意する） ○紙ファイル（教材費で購入する） ○書写の道具（各自で用意する）
学習の進め方	・予習をして授業に臨む。（あらかじめ教科書を音読しておくだけでも効果がある） ・授業に積極的に参加する。（進んで発言する／工夫したノートを作る／質問をしてみる） ・漢字の読み書きや文法の副教材を繰り返し活用する。（語彙力の向上） ・授業の後は復習する。（テスト前だけでなく、普段から家庭学習をするように努める） ※古典に親しむことをねらいとして、「百人一首」の学習を取り入れている。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	単元名 1 広がる学びへ	知識・技能	・漢字の読み書きができる。	・定期テスト ・漢字小テスト ・古典の暗唱 ・作品（硬筆／書道）
5	2 多様な視点から		・語句、漢字を的確に使える。	
6	○書写（硬筆）仮名と行書		・文法について理解している。	
7	3 言葉と向き合う		・敬語を正しく使える。	
8	○夏休みの宿題（作文）	思考・判断・表現	・文字を丁寧に正しく書ける。	・定期テスト ・発言や発表 ・作品（作文）
9	4 人間のきずな		・古典をすらすらと読める。	
10	5 論理を捉えて		・古典の知識を身につけている。	
11	6 いにしへの心を訪ねる		・情報を的確に聞き取れる。	
12	7 価値を語る	主体的に学習に取り組む態度	・目的や場面に応じてきちんと発言、発表できる。	・国語ファイル ・ノート ・提出物の取組 ・授業の取組
1	○書写（書き初め）行書		・叙述に沿って文章を読み取り正しく受け止められる。	
2	8 表現を見つめる		・目的や相手に応じてわかりやすい文章を書ける。	
3	○1年間のまとめ		・意欲的に取り組んでいる。	
			・学習課題に沿って、粘り強く努力している。	
			・これまで学習したことを、生かそうとしている。	
			・周囲と協調し、言葉を伝え合おうとしている。	

社会【第2学年】

1 社会の学習で目指すこと（到達目標）

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的
国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 新しい社会 歴史（東京書籍） 新しい社会 地理（東京書籍） 中学社会科地図（帝国書院） ○副教材 つながる歴史（浜島書店） 地理の学習 2 歴史の学習 2・3	持ち物等	○教科書 ○ノート ○資料集 ○地図帳 ○筆記用具
学習の進め方	○单元ごとに設定された学習課題を意識し、課題解決や内容理解に対して主体的に取り組む。 ○グループワーク等の活動を通して、多面的・多角的視点から捉える。 ○ワークやプリントを活用し、復習することで定着をはかる。 ○日常生活と結びつけることでより学習を深める。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準	評価方法
4	地 地域調査の手法	知識・技能	・定期テスト ・小テスト ・ノート ・ワークシート
5	地 日本の地域的特色と地域区分		
6	歴 近世の日本 （江戸時代）		
7	★1 学期期末テスト		
8	地 日本の諸地域	思考・判断・表現	・定期テスト ・小テスト ・ノート ・ワークシート
9	九州地方		
10	中国国四国地方		
11	近畿地方		
12	中部地方	主体的に学習に取り組む態度	・定期テスト ・小テスト ・ノート ・ワークシート
1	★2 学期中間テスト		
2	関東地方		
3	東北地方		
4	北海道地方	主体的に学習に取り組む態度	・定期テスト ・小テスト ・ノート ・ワークシート
5	地 地域の在り方、課題を見つける		
6	★2 学期期末テスト		
7	（江戸時代 続き）		
8	歴 開国と近代日本の歩み	主体的に学習に取り組む態度	・定期テスト ・小テスト ・ノート ・ワークシート
9	（江戸時代末～近代文化の形成）		
10	★学年末テスト		
11			

数学【第2学年】

1 数学の学習で目指すこと（到達目標）

- 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、データの分布に着目しその傾向を比較して読み取り判断する力を養う。
- 数学的な活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を育てる。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「未来へ広がる数学2」（啓林館） ○副教材 「新しい数学 実力アップ問題集（東京書籍）」	持ち物等	○教科書 ○ファイル ○ワーク ○コンパス、定規
学習の進め方	○单元ごとに、学習内容の見通し持って学習内容を確認する。 ○数量の関係や法則について自分なりの考えを持ち、内容を理解した上で使いこなせるように演習する。 ○自分の意見を発表する。友達や先生の意見を聞いてさらに自分の考えを整理し、深める ○自主学習ノートに自分が必要と考える学習を行い、学びを調整する力を伸ばす。 ○ワークを活用し、復習することで定着をはかる。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	1章 式の計算	知識・技能	○数量や図形などに関する基礎的・基本的な概念や原理を理解している。 ○事象と数学化したり、数学的に解釈・表現できる。 ○数学的な問題解決に必要な知識を持っている。	・定期テスト ・授業態度 ・小テスト ・テスト直しレポート ・提出物
5	1節 式の計算			
	2節 文字式の利用			
6	2章 連立方程式			
	1節 連立方程式			
	2節 連立方程式の利用	思考・判断・表現	○日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察することができる。 ○既習の内容を基にして、数量や図形の性質を見だし、統合的・発展的に考察することができる。 ○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力	・定期テスト ・授業態度 ・小テスト ・テスト直しレポート ・提出物
7	3章 1次関数			
	1節 1次関数とグラフ			
8	2節 1次関数と方程式			
9	3節 1次関数の利用			
10	4章 図形の調べ方	主体的に学習に取り組む態度	○数学的に考えることのよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題の解決に数学を活用しようとする。 ○問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 ○多様な考え方を認め、よりよく問題解決をする態度	・定期テスト ・授業態度 ・小テスト ・テスト直しレポート ・提出物
	1節 並行と合同			
	2節 図形の性質の利用			
11	3節 証明			
	5章 図形の性質と証明			
	1節 三角形			
12	2節 四角形			
	3節 図形の性質と証明の利用			
	6章 場合の数と確率			
1	1節 場合の数と確率			
	2節 確率の利用			
	7章 箱ひげ図とデータの活用			
2	1節 箱ひげ図			
3	1年間の復習・学習内容の活用			

理科【第2学年】

1 理科の学習で目指すこと（到達目標）

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 自然の探究 中学理科2（教育出版） ○副教材 理科資料集 埼玉県版（とうほう） よくわかる理科の学習2年（明治図書）	持ち物等	○教科書 ○ノート ○ファイル ○資料集 ○ワーク
学習の進め方	○学習の前後での考えの違いを捉え、考えの広がりや次を生かす。 ・「学習後の考え」を整理してまとめ、学習前と後での考え方のちがいをとらえる。 ○疑問に思うこと、「考える」という時間を大切に、自分の考えを持って学習内容に臨む。 ・授業の中でメモを取りながら、その授業で一番大切なことは何だったかをとらえられるようにする。 ・わからないこと、解決できないことは積極的に担当教員に質問をする。 ○適宜実験を行い、自分の目で確かめる。 ・積極的に授業に参加し、実験や観察では注意事項に気をつけ、安全に取り組む。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	生物のからだのつくりとはたらき 1章 生物の細胞と個体	知識・技能	事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・定期テスト ・レポート ・技能テスト
5	2章 植物の体のつくりとはたらき 3章 動物の体のつくりとはたらき			
6	化学変化と原子・分子			
7	1章 化学変化と物質の成り立ち	思考・判断・表現	事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	・定期テスト ・レポート
8	2章 いろいろな化学変化			
9	3章 化学変化と物質の質量			
10	気象とその変化	主体的に学習に取り組む態度	事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・提出物（問題集） ・授業での取り組みの様子 ・定期テスト ・テスト直し
11	1章 気象の観測			
12	2章 空気中の水の変化 3章 低気圧と天気の変化			
1	4章 日本の気象 5章 大地の躍動と恵み			
2	電気の世界			
3	1章 電流と電圧 2章 電流と磁界 3章 静電気と電流			

音楽【第2学年】

1 音楽の学習で目指すこと（到達目標）

- ・歌詞の内容や曲想を味わい、表現したい思いや意図をもって曲にふさわしい表現の工夫を身に付ける。
- ・声部の役割と全体の響きとの関わり合いを理解して表現する力を身に付ける。
- ・多様な音楽に対する理解を深め、幅広く鑑賞する能力を身に付ける。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「中学校の音楽2・3年の上」 (教育芸術者) ○コーラスフェスティバル	持ち物等	○教科書 ○音楽ファイル ○コーラスフェスティバル ○アルトリコーダー ○筆記用具
学習の進め方	・課題（本時のねらい）の把握 ・説明（教科書やICTを使用し、活動内容を理解する） ・課題解決の取り組み（グループ活動、技能練習） ・振り返り、まとめ（自己評価）		

3 授業計画及び評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	・ガイダンス	知識・技能	・歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。	・活動時観察 ・振り返りシート ・相互評価 ・実技テスト ・単元テスト
5	・夢の世界を		・楽器を演奏するために必要な楽器の特性（知識）や技能を身に付けている。	
6	・ボディーパーカッション	思考・判断・表現	・歌詞の意味を考え、意味に合った歌い方ができる。	
7	・交響曲第5番ハ短調		・音楽を通して感じたことを音楽を形づくっている要素等を使って根拠をもって説明したり演奏に繋げたりすることができる。	
8	・サントルチア	主体的に学習に取り組む態度	・音楽活動を楽しみながら仲間と協力して意見や考えを述べて学習活動に取り組もうとしている。	
9	・夏の思い出		・振り返りシートで本時の目標と自分を照らし合わせて学習内容を振り返ることができる。	
10	・合唱祭に向けた取り組み			
11	・歌劇「アイダ」			
12	・リコーダー			
1	・ギター			
2	・荒城の月			
3	・創作			
4	・歌舞伎			
5	・世界の諸民族音楽			
6	・卒業式に向けた取り組み			

美術【第2学年】

1 美術の学習で目指すこと（到達目標）

- ・造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。
- ・主題を生み出し豊かに発想して構想を練り、美術や美術文化に対する感じ方を深めることができる。
- ・創造活動の喜びを味わい、主体的に学習活動に取り組むことができる。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「美術2・3上下」(日本文教出版) ○副教材 「美術資料」(秀学社)	持ち物等	○教科書 ○スケッチブック ○筆記用具	○資料集 ○アクリル絵の具
学習の進め方	・課題（本時の目標）の把握。 ・説明（教科書や板書、参考作品、大型モニター等を見ながら）を受け、活動内容を理解する。 ・取組（作品制作・鑑賞活動・小グループでの話し合い活動） ・自己の学習の振り返り。（成果と課題等を把握） ・後片付け			

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	・オリエンテーション ・絵に詩や言葉を添えて	知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・行動観察 ・作品 ・ワークシート ・実技テスト（定期テスト）
5				
6				
7	・光の効果を生かして～照明～ ・風景画（夏休みの宿題）	思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて考えている。 ・主題を生み出し豊かに発想し構想を練っている。 ・美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	・提出物 ・アイデアスケッチ ・鑑賞プリント ・メッセージカード ・忘れ物
8				
9				
10	・ポスターをつくろう	主体的に学習に取り組む態度	・美術の創作活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	
11				
12				
1	・京都、奈良の文化遺産を知ろう			
2				
3				

保健体育【第2学年】

1 保健体育の学習で目指すこと（到達目標）

- ・運動の合理的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わう。
- ・運動を適切に行うことにより、運動や体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付ける。
- ・運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて考え判断するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- ・運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・共生の意欲を育てると共に健康安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を育てる。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○ステップアップ中学体育（大修館） ○中学保健体育（大修館）	持ち物等	・教科書 ・ファイル ・筆記用具
学習の進め方	・チャイムが鳴ったとき、活動場所に集合・整列完了。 ・健康観察、準備運動（みんなに聞こえる声で号令をかけ、準備運動・ランニングなどをする） ・課題（本時のねらい）の把握、よい動きの理解 ・課題解決（ねらい達成）、よい動きの獲得のために活動（仲間と教え合い、協力して活動すること） ・自己や仲間の学習の振り返り（成果と課題等を把握し、次の目標をもつ） ※ケガで運動ができない場合は、できること（教え合い、アドバイスの援助、仲間の振り返り）に取り組む。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	・ 体づくり運動	知識・技能	・ 運動の特性や技の名称等を理解している。	・ 活動時観察 ・ 学習カード ・ 相互評価 ・ 実技テスト ・ 単元テスト
5	・ 新体力テスト ・ 体づくり運動(体育祭関係を含む) ・ 水泳（クロール・平泳ぎ）		・ 各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 ・ 保健や体育理論の内容について理解できている。	
6	・ 陸上競技（走り幅跳び）	思考・判断・表現	・ 単元の特性やねらいを理解し、自己や仲間の課題を見つけ、合理的に解決できるように課題や目的に応じて工夫している。	
7	・ 器械運動（跳び箱運動） ・ 保健（傷害の防止）		・ 自己や仲間の課題や解決に向けて、自己の考えたことを他者に伝えている。	
8		主体的に学習に取り組む態度	・ 各運動に対して積極的に取り組もうとしている。	
9	・ ダンス（創作ダンス）		・ 準備や片付け、学習上の仕事分担などの自己の役割を果たす。（責任）	
10	・ 球技（卓球）		・ 仲間の学習を援助（教え合い）しようとしている。（協力）	
11	・ 球技（ソフトボール）		・ ルールやマナーを守ろうとしている。（公正）	
12	・ 陸上競技（長距離走） ・ 保健（傷害の防止）		・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。（共生）	
1	・ 体育理論（運動やスポーツの多様性）		・ 健康、安全に気を配っている。	
2	・ 武道（柔道）			
3	・ 球技（バレーボール） ・ 保健（健康な生活と疾病の予防）			

技術・家庭〔技術分野〕【第2学年】

1 技術・家庭〔技術分野〕の学習で目指すこと（到達目標）

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「技術・家庭〔技術分野〕」（開隆堂）	持ち物等	○教科書 ○ハンドノート C・D ○プリント ○クロームブック ○筆記用具 ○体育着・ジャージ ○LED ライト基本モジュール ○マイクロビット ○その他必要なもの
学習の進め方	<授業スタイル> 『説明・解説を聞く』『考えてみる（調べてみる・話し合ってみる）』『体験してみる（設計・製作してみる）』の時間を明確に分け展開していく。提出物は原則クラスルームの課題提出で行う。 <場 所> 技術室		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4~7 7~10	「エネルギー変換の技術」 ・生活や社会とエネルギー変換の技術 ・エネルギー資源の利用 ・電気の利用 ・運動の利用 ・エネルギー変換の技術による問題解決 ・これからのエネルギー変換の技術 「情報の技術」 ・生活や社会と情報の技術 ・情報とコンピュータ ・計測・制御による問題解決	知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	・定期テスト ・レポート ・ハンドノート ・ワークシート ・確認テスト ・製作品 ・観察
		思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・定期テスト ・レポート ・ハンドノート ・ワークシート ・確認テスト ・製作品 ・観察
		主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	・定期テスト ・レポート ・ハンドノート ・ワークシート ・確認テスト ・製作品 ・観察

技術・家庭〔家庭分野〕【第2学年】

1 技術・家庭〔家庭分野〕の学習で目指すこと（到達目標）

- ・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「技術・家庭〔家庭分野〕」（開隆堂）	持ち物等	・教科書 ・ファイル ・ワークノート2冊 ・裁縫道具・三角巾 ・エプロン
学習の進め方	・課題の把握（自ら課題を発見する） ・説明（教科書やノートを使用し、使用方法やはたらきを理解する） ・取組（ペア活動、グループ活動） ・まとめ（自己評価、学級評価を行う）		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
10月	ガイダンス 快適に住まう ・住まいのはたらき ・安全な住まい ・快適な住まい	知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・観察 ・プリント ・製作物 ・レポート ・単元テスト ・実技テスト
11月	食品の選択と保存 ・食品が食卓にのぼるまで ・生鮮食品の選び方 ・いろいろな加工食品 ・加工食品の表示・選び方 ・保存の仕方を考える ・食品の安全と情報		これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
12月	食品の調理をしよう ・調理の計画・基本 ・肉魚野菜の調理 地域の食材と食文化 ・地域の食材と郷土料理 ・受け継がれる食文化 ・地域と世界に目をむけて	思考・判断・表現		
1月	家庭生活と消費 ・生活に必要なものの流れ 商品の選択と購入 ・商品購入のプロセス ・生活情報の活用 ・商品の価格 ・販売方法と支払方法	主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
2月	よりよい消費生活のために ・消費生活のトラブルを防ごう ・消費者の権利と責任 ・消費者を支えるしくみ			
3月				

外国語（英語）【第2学年】

1 外国語（英語）の学習で目指すこと（到達目標）

既習事項を運用し、聞き手や読み手を意識して自分の思いや考えを即興で語ったり書いたりすることを身に付ける
・基礎的、基本的な英語力の定着
・英語を積極的に使い、楽しんでコミュニケーションをとろうとする態度の育成
・総合的な英語力「聞く」「書く」「読む」「話す（発表・やりとり）」の育成

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「SUNSHINE ENGLISH COURSE 2」（開隆堂） ○副教材 Joyful work②	持ち物等	○教科書 ○ノート ○ワーク ○ファイル
学習の進め方	○単語力を高める。「見る」「読む」「書く」等を繰り返す。 ノートに書いて満足しないように。 ○文法を理解する。「授業で理解する」→「問題（ワーク）を解く」→「間違いを見直す」 ○理解力（読解力・聞き取る力）を高める。 「読む・意味がわかる」→「すらすらと読む」 問題があるなら解く。 ○表現力（話す力・書く力）を高める。 「SVを意識し、学んだ単語や文法を用いて話す・書く」回数を増やす。 自分だけでは適切な英文か確認できないので、先生に確認する。 授業でも家庭学習でも英語をなるべく多く使用する。 ☆その他 ・教科書の本文を音読・暗唱・筆写する。ワークに繰り返し取り組む。 ※「読める・意味がわかる」→「すらすらと読める」→「問題を解く」「書く」の順番		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月		学習活動	評価規準		評価方法
4		・Program1 「未来表現・動名詞」	知識・技能	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を理解しているか。また、その知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けているか。	・定期テスト ・小テスト ・観察 ・実技テスト ・ワークシート
5		・Program2 「接続詞 that・when・if」			
6		・Program3 「不定詞」			
7		・その他「読み物」「電話」 ・その他（CM作り） 「スピーチ・プレゼンテーション」	思考・判断・表現	目的、場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるか。また、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるか。	・定期テスト ・小テスト ・パフォーマンステスト（音読・暗唱・リテリング・ライティング・スピーキング・スピーチ・スキット等） ・観察 ・ワークシート
9		・Program4 「不定詞」「助動詞 must have to」 ・その他「レストランで食事」			
10		・Program5 「how to」「look 形容詞」 「become 形容詞・名詞」 「主語 動詞 人 もの」			
11		・Program6 「比較級 最上級 as ～as」 ・その他「メールで使う表現」 ・その他「日本のおすすめスポット」	主体的に学習に取り組む態度	外国語に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか。	・観察 ・ワークシート ・レポート
12		・Program7 「like の比較表現」 「teach 人 how to」			
1		・Program8 「受け身」 ・その他「空港アナウンス」 ・その他「My Hero の魅力を伝えよう」 ・読解			

特別な教科 道徳【全学年】

1. 特別な教科 道徳とは

道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成しようとするものである。

「道徳」の時間（年間 35 単位時間）を要として、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動のそれぞれの特質に応じて、学校の教育活動全体を通じて行う。

「特別の教科 道徳」は、日常生活において様々な場面でどのように行動すればよいのか、どのように対応すればよいのかに関心を向けつつ、どうしてそのことが必要なのか、どうしてそのようなことが起こるのかについて深く考え、その視点から自らを見つめ、課題を見出し追究していこうとする心を育てることが中心となる。

2. 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「中学生の道徳 明日への扉」(学研) ○埼玉県道徳教育教材資料集 「彩の国 道徳」(埼玉県教育委員会)
持ち物等	○教科書 ○ファイル

3. 道徳科で学ぶ「22の道徳的価値」

道徳教育の目標を達成するために学ぶ「22の道徳的価値」は“4つの視点”に分類整理されている。

＜目標＞

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

↑	↑	↑	↑
A 主として自分自身に関すること	B 主として人との関わりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
・善悪の判断、自律 ・正直、誠実 ・節度、節制 ・個人の伸長 など	・親切、思いやり ・感謝 ・礼儀 ・友情、信頼 など	・規則の尊重 ・公正、公平 ・よりよい学校生活 ・国際理解、国際親善 など	・生命の尊さ ・自然愛護 ・感動、畏敬の念 ・よりよく生きる喜び など

4. 評価について

授業における学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価する。また、1つ1つの内容項目ごとに、どれくらい理解したかということの評価するものではなく、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようになったか、道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしていたか、といったことを年間や学期など一定のまとまり（本校では学期ごと）の中で評価する。ただし、数値などによる評価は行わない。

総合的な学習の時間【全学年】

1 学習で目指すこと（到達目標）

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けることを目指している。

2 授業に関する注意事項

使用教材	教科書がないのが「総合的な学習の時間」の特色である。学年ごとに必要なものを事前に準備する。	持ち物等	○ファイル ○担当の先生が指示したもの
学習の進め方	学習の進め方は様々だが、基本的には課題を立てるところから学習がスタートする。自ら課題を設定し、主体的に解決していくという課題解決型の学習が行われる。 課題解決までの手順としては、次のように進められる。 ①必要な情報を収集し、蓄積する。 ②蓄積した情報を整理、分析する。 ③考察を加えたり、自分なりの考えをまとめたりする。 ④調べたことや考えたことを仲間と伝え合う。 また、スキー教室、校外学習、修学旅行などの行事の事前学習や事後のまとめなどを行うのも総合的な学習の時間である。仲間と共に協働的に取り組むことが大切である。		

3 授業計画及び評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
1年間を通して学習する	第1学年【50時間】 テーマ「将来を見据えて考える」 ①郷土の学習 ②環境をテーマにした学習 ③スキー体験教室を生かした学習 ④キャリア教育（働く人に学ぶ）	知識・技能	課題の解決に必要な知識や技能を身に付けているかどうかで評価する。どんなことを身に付けたかということが通知表に文章で記述される。	・授業の様子の観察 ・作品の出来や発表の内容
	第2学年【70時間】 テーマ「すべての人を幸せにするために私たちができること」 ①福祉をテーマにした学習 ②キャリア教育（職場体験学習） ③校外学習を生かした学習 ④修学旅行に向けた学習	思考・判断・表現	自分で課題を立て、どのように解決したかで評価する。身に付けた知識や技能をどのように使ったかということが通知表に文章で記述される。	・授業の様子の観察 ・作品の出来や発表の内容
	第3学年【70時間】 テーマ「より良い世界のために私たちができること」 ①修学旅行を生かした学習 ②キャリア教育（進路選択に向けて） ③国際理解やSDGsをテーマにした学習 ④卒業に向けた学習	主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組むと共に、仲間と協力しながら学習できたかで評価する。どう周りに関わり、どう自分に生かしたかということが通知表に文章で記述される。	・授業の様子の観察 ・授業の振り返りや自己評価 ・クラスの仲間からの評価